

活動テーマ

若者参加による地域のにぎわいづくり

横瀬町地区

立教大学

## 1 活動目的

首都圏の若者を含む、町外のゲストを呼び込むことで、来訪者の農業や農産物あるいは加工品への関心を高める。最終的にはIターンによる少子高齢改善、それらを前提とした脱日帰り、宿泊滞在 destinations 化を目的として、地域ブランディングの向上を目指す。

具体的な方策としては、マルシェや寺カフェなどの魅力的なイベントの創出や、民泊、空き家活用による宿泊客の増加を目指しているが、町内複数箇所の宿泊施設との競合が課題の一つである。

横瀬町、立教大学双方と連携協定を結ぶ武蔵野銀行の地域サポートのネットワークを活用し、地域の農林業と県内商工業の新たな連携を「よこらぼ」（官民協働プラットフォーム）ベースでの提案、実現も目的の一つである。

## 2 活動地域の現状

横瀬町は人口8000人強で、面積は50平方キロ足らず、人口密度は166人で都下西多摩郡に相当する。都内から70キロ圏内で町外での三次産業従事者が6割を超える。秩父域内の他地区同様、高齢化率は3割を超え、対策が急務である。

本活動では、秩父市や飯能市と違い、地元の方々のみ参加している比較的小規模のイベントをサポートしているが、1、2月のあしがくぼ氷柱は、日によっては来場者が町内人口を超え、近年は期間中計10万人以上の参加者が集まる。4、5月の羊山公園芝桜は、公園は秩父市だが、横瀬駅からのゲートウェイとして町内に多くの観光客が押し寄せ、これらはマストツーリズムといってもよい規模の例外である。

## 3 活動内容

棚田や市内のまつり・イベントへ、学生がスタッフ参加し、アンケート調査や報告書を作成し、若者視点で地域の農地、農産物の魅力を内外に伝える。

あしがくぼマルシェや氷柱においては、学生が企画側として参加し、地域の農産物を用いた加工品を若者のアイデアで開発、提供する。

計画に縛られず、横瀬駅の車両基地を利用した秩父地域酒場イベントなど、自治体からの要望に臨機応変に対応することも大切にする。

## 4 成果

a. 地域イベントスタッフとして、以下に参加

夏休み木工教室

火おこし体験

寺坂棚田彼岸花まつり

よこぜまつり

秩父車両基地酒場(年度内依頼イベント)

b. 地域イベント企画として、以下に参加

あしがくぼ里山まるマルシェ

あしがくぼ里山まるマルシェ&cafe 寺' s YOKOZE

あしがくぼ氷柱

## 5 課題

1. これまでのイベントの反省や、回数を重ねて得てきた信頼を活かし、地域のニーズに合わせて、さらに地域に寄り添った企画・提案を行う。

横瀬の人々は私たちを温かく受け入れて下さり、地域の方々の協力・信頼を得たうえでイベントを行えている。新たな企画として2017年度から開催している「cafe 寺' s YOKOZE」は、マルシェより参加者が増加し反響も大きく、今年度も開催することができた。しかし、イベントの参加者の多くがリピーターであることから、回数を重ねても楽しめるイベントの必要性を強く感じている。より活気あるイベントの実現には、地域のニーズに合わせて積極的に新たな企画を立案し、実現することが重要であろう。

2. 地元の人々との交流を深め地域活性化に貢献していく。

イベント頻度を高めることで交流を深め、地域活性化により貢献する。

3. 若者目線を活かした企画で、横瀬の魅力をさらに発信していく。

私たちの最終目標であるUターンやIターンの実現のためには、首都圏の若者に横瀬地域の魅力を知ってもらう必要がある。そのためには同じ目線を持った学生のアイデアで若者を地域イベントに呼び寄せることが必要だ。もう一度ここに来たいと思えるようなイベントを企画し、若者情報収集のメインツールであるSNSを使って発信していきたい。周辺の温泉施設は宿泊型の旅行にも適しているが、氷柱時期等の繁忙期には宿泊施設不足もみられ、学生が自らの課題を解決すると同時に、横瀬地域の課題も考えていく必要がある。

## 6 次年度以降の計画

5月：春マルシェでのスタッフおよび、スタンプポイントとなる学生による出店

7・8月：夏休み宿題イベントのスタッフ

11月：秋マルシェ&寺カフェのスタッフ

日本ペルー交流120周年企画として横瀬町ナスカ地上絵は、日本、ペルー両政府の後援を受けて実施予定。

2月中旬：あしがくぼ氷柱期間中の立教デーで企画・スタッフ両方の協力予定

今後も、横瀬町依頼の臨機応変な対応として、左の写真の車両基地酒場など、計画外のイベントへ協力する。



(写真：平成30年度参加学生の活動の様子)